

Focus

親子孫の三代で勤務

特別養護老人ホーム ローゼンヴィラ藤原 松本 美由紀さん、樹莉さん

似ていないと
よく言われますが、
親子です



高階悦子さん(故人)、松本美由紀さん、松本樹莉さんは、親子孫の三代で当法人に勤務していただいています。今回は、松本さん親子に色々とお聞きしました。

—当法人に勤務するきっかけは?—

松本(美)「自宅から近くて時間的な融通もできることがきっかけでした。後日、母が勤めていると聞いてびっくりしました。」

松本(樹)「祖母と母が勤務していたこともあり、最初から決めていました。迷いはありませんでした。」

—仕事のやりがいについて—

松本(美)「入浴介助を中心に勤務し

ています。「入浴して気持ち良かった。」とお言葉を掛けていただいた時は、この仕事をやっていて良かったと感じる瞬間です。」

松本(樹)「入社して3ヶ月なので、1人で出来ることは少ないですが、ご入居者から介助の際に指名していただく機会があり、手ごたえを感じています。」

—ご自宅で仕事の話は出ますか?—

松本(美)「娘が勤務する以前は、仕事で上手くいかなかったことを思い出して悶々とする日もありましたが、娘と仕事について会話ができるようになって解決することも多くなり、却って良かったです。」

松本(樹)「母と共通の話題ができたので、親子の会話が増えました。」

—今後の目標はありますか?—

松本(美)「とにかく永く働きたい。体が言うことをきく限りは仕事を続けたいです。」

松本(樹)「色々な仕事を覚えて、早く1人立ちできるようになりたいです。」

—これからも宜しくお願いします。—

(聞き手) 特養藤原 高山

追伸 高階悦子さんには在職中、様々な場面で叱咤激励いただきました。在りし日を懐かしく思いますと共にご冥福をお祈りいたします。

職員リレー

上司として父として

誠光園
齋藤 修



私が誠光園に入社してから13年目になりました。今思うと13年の日々は長いようでとても短く、毎日考えさせられることが多いように感じています。ここ数年では自身のことを含め職員の育成、チームワークの強化を目標に日々の業務に励んでいます。8月からはEPAの受入れも開始になり、新しい仲間も増えるのでより明るく活気のある職場にしていきたいと考えています。まだ課題は多いですが、現場では若い職員も増えてきており、ベテランや中堅職員も負けないように楽しく仕事をしています。

プライベートでは育児、趣味の釣りなどでストレス発散しています。最近では子供も釣りに興味を持ち、休日では親子で釣りや公共施設へ遊びに行ったりと、公私ともに充実した生活を送ってい



子供との釣りが
何よりの楽しみです

ます。なかなか合わない休みの中でも家族と過ごせる時間は大切に、日々子供の成長を実感しています。

現場では上司として家では父親としてまだまだ足りないことも多く、色々な方へ迷惑をかけていますが、辛いことも一人で考えすぎず家族、上司と相談しながら進めていくことが大切だと日々痛感しています。これからも仕事とプライベートが両立できるようにし、より充実した毎日を過ごしていけるように頑張っていきたいと思ひます。

